

都市再生整備計画 事後評価シート
米原駅東口周辺地区

令和6年3月

滋賀県米原市

様式2-1 評価結果のまとめ

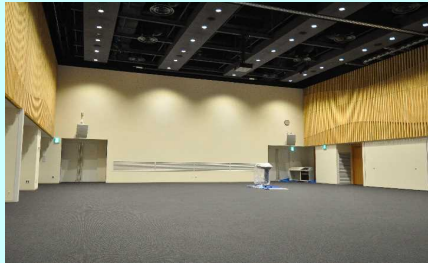
都道府県名	滋賀県		市町村名		米原市		地区名		米原駅東口周辺地区			面積	8.7ha
交付期間	平成31年度～令和5年度		事後評価実施時期		令和5年度		交付対象事業費		1,309.9百万円	国費率	0.4		
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業		公園、地域生活基盤施設(広場、人工地盤)、高次都市施設(地域交流センター)								
			提案事業		事業活用調査								
	当初計画から削除した事業		基幹事業		公園		民間開発に併せ公園を整備する予定であったが、コロナ禍により民間事業が頓挫したため、整備予定を見直した。			影響なし			
			提案事業		なし								
	新たに追加した事業		基幹事業		高次都市施設(観光交流センター)		庁舎複合エリアに新幹線駅直結の観光案内所を整備することになったため。			指標に観光入込客数を追加した。			
			提案事業		地域創造支援事業		庁舎複合エリアに展望ロビーを整備することになったため。			影響なし			
交付期間の変更		当初	令和1年度～令和4年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		期間延長により一部数値目標を上方修正した。						
		変更	令和1年度～令和5年度										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	米原駅の乗車数(JR在来線+新幹線)	人	12,209	H28	15,100	R5	12,754	9,832	×	あり なし ●	コロナ禍による鉄道利用者の大幅減、それに伴う新快速の減便が影響した。	R6年12月
	指標2	地価公示価格の平均(米原-1,3,10)	円/㎡	52,200	H30	52,200	R5	55,600	55,700	○	あり なし	都市機能の強化により、周辺の地価が上昇に転じた。	
	指標3	市民意識調査(広域的な交流機能の整備)満足度	%	6	H29	10	R5		8	△	あり なし ●	民間開発が遅れていることで満足度の上昇も緩やかとなっている。	R7年度内
	指標4	観光入込客数	人	1,690,900	H30	1,704,000	R5		1,832,998	○	あり なし	スキー場をはじめ各観光施設がコロナ禍から回復し、当該地からのアクセスを強化している。	R6年12月
指標5										あり なし			
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	市民意識調査(これからも米原に住み続けたい)	%	79.9	H31				80.3			本事業を契機として、米原市の魅力を向上させることが、住み続けたい人の割合を増加させることができた。	
	その他の数値指標2												
その他の数値指標3													
4)定性的な効果発現状況	本事業(米原駅周辺の都市機能強化)を契機として、駅周辺の活動が活発となり、賑わいが生まれつつある。												
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等								
	モニタリング		滋賀県統計書により、毎年、駅の乗降客数のモニタリングを実施した。		都市再生整備計画に記載し、実施できた		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		● 今後も継続して実施する。		
	官民連携による取組		市民、市民活動団体および障がい者関係団体などと市民ワークショップや意見交換会を開催し、地域交流センターのあり方や駅周辺整備の課題等の意見集約を行った。		都市再生整備計画に記載し、実施できた		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		● 今後も意見を聞きながら、よりよいまちづくりを進めていく。		
	持続的なまちづくり体制の構築		本事業(米原駅周辺の都市機能強化)を契機として、駅周辺の活動が活発となり、賑わいが生まれつつある。		都市再生整備計画に記載し、実施できた		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		● 民間開発事業を誘導し、まちづくりを進める。		

様式2-2 地区の概要

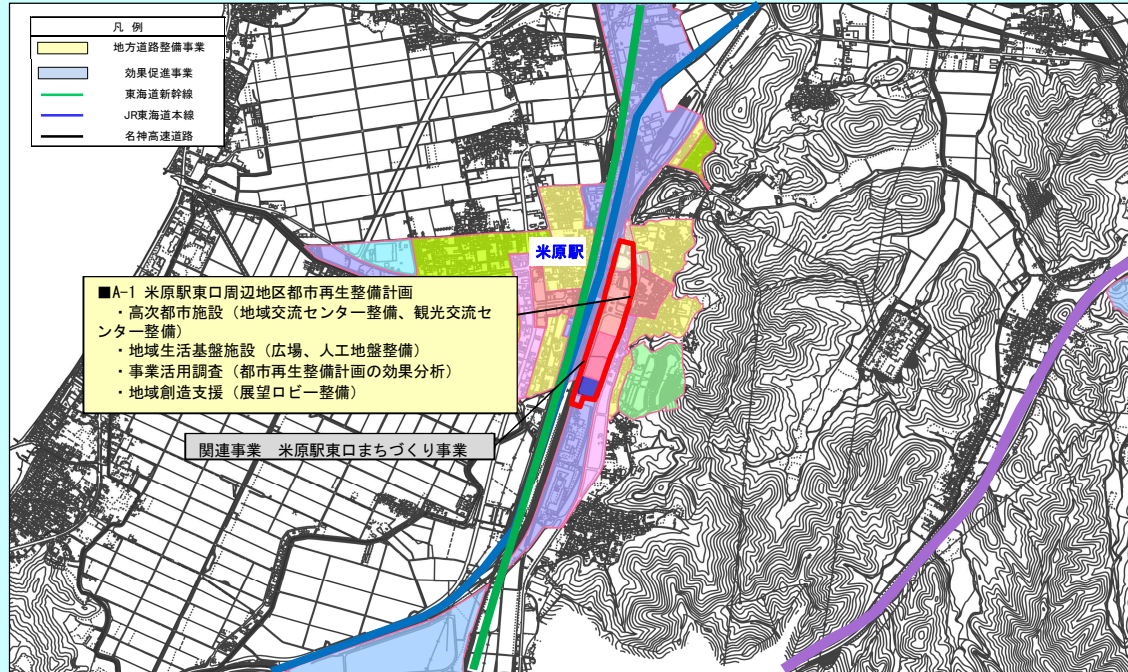
米原駅東口周辺地区(滋賀県米原市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値		
大目標:多様な交流と連携によるにぎわいと魅力ある都市拠点の創出 目標1:公民連携による都市機能の集積および新たな都市拠点の形成 目標2:地域交流拠点の整備によるにぎわい創出	米原駅の乗車数	単位:人	12,909 H28	15,100	R5	9,832	R4
	地価公示価格の平均	単位:円/㎡	52,200 H30	52,200	R5	55,700	R5
	市民意識調査満足度	単位:%	6 H29	10	R5	8	R5
	観光入込客数	単位:人	1,690,900 H30	1,704,000	R5	1,832,998	R4

【コンベンションホール】



【市民活動スペース】



【屋上広場】



【連絡通路】



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業(米原駅周辺の都市機能強化)を契機として、駅周辺の活動が活発となり、賑わいが生まれつつある。 ・連絡通路の設置により、バリアフリー化が進み、駅、地域交流センター、市役所利用者の利便性が向上した。 ・観光案内所の設置により、鉄道による来訪者の本市だけでなく、周辺地域への観光面での利便性向上に寄与した。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・米原駅周辺に都市機能が集積しつつあるが、民間開発が遅れているため、進出事業者を募るべくサウンディング型市場調査を行い、民間企業の意向等に合わせ、にぎわいづくりを進める。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 官民連携による取組みの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標	●		追加	観光入込客数 1,700,000人	観光交流センター整備を追加したため、観光入込客数の指標を追加した。
C. 目標値	●		米原駅乗車数 14,800人 観光入込客数 1,700,000人	米原駅乗車数 15,100人 観光入込客数 1,704,000人	事業実施期間を4年間から5年間に延長したことにより、目標値を上方修正した。
D. その他()					

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園	駅東口まちづくり公園	150	公園 A=5,000㎡	0	A=0㎡	民間開発に併せ整備する予定であったが、コロナ禍により民間事業が頓挫したためR4に削除した。	影響なし		
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	まいばら駅前ぶらっとホーム 屋上広場	9	広場 A=600㎡	9	広場 A=600㎡	変更なし	影響なし	●	
地域生活基盤施設	まいばら駅前ぶらっとホーム 連絡通路	178	連絡通路 A=144㎡	293	連絡通路 A=183㎡	連絡通路の設計精査により規模、 事業費増	影響なし	●	
高質空間形成施設									
高次都市施設	まいばら駅前ぶらっとホーム	993	A=1496㎡	953	A=1269㎡	設計精査、入札差金による事業規模減	影響なし	●	
高次都市施設	観光案内所	0	A=0㎡	36	A=79㎡	新幹線駅直結する観光案内所の整備を事業追加	指標として米原市観光入込客数の増加を設定した	●	
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
				基準年度		基準年度		目標年度					あり	なし		
指標1	米原駅の乗車数 (JR在来線+新幹線)	人	滋賀県統計書より米原駅の新幹線と在来線の乗車人数の合計値	10,718	H19	12,209	H28	15,100	R5	モニタリング	H30	12,754	モニタリング	△		●
										事後評価	確定見込み	●	9,832	事後評価		
指標2	地価公示価格の平均 (米原-1,3,10)	円/m ²	滋賀県地価公示資料より事業用地周辺の3か所の地価公示価格の平均額で、評価値は現状維持の値と設定	53,000	H24	52,200	H30	52,200	R5	モニタリング	R2	55,600	モニタリング	—		
										事後評価	確定見込み	●	55,700	事後評価		
指標3	市民意識調査(広域的な交流機能の整備)満足度	%	市民意識調査による「広域的な交流機能の整備」の回答が「満足」「どちらかといえば満足」の割合	6	H24	6	H29	10	R5	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価	確定見込み	●	8	事後評価		
指標4	観光入込客数	人	滋賀県観光入込客数のうち米原市分を抜粋	2,219,100	H19	1,690,900	H30	1,704,000	R5	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み	●	1,832,998	事後評価		
指標5										モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定見込み			事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	コロナ禍による新幹線を始めた鉄道利用者の大幅減、それに伴う新快速の減便(昼間2本/h→1本/h)が影響したため、目標達成は困難であると判断した。	コロナ禍の影響を大きく受けた。
指標2	都市機能の強化により、周辺の地価が下げ止まり、上昇に転じた。	令和2年の地価公示資料から、3か所のうち1か所の評価場所の変更があった。そのため、令和2年と令和5年の平均地価を比較し上昇していることを確認した。
指標3	数値目標に至っていないが、調査結果を見ると着実に増加しているため。	
指標4	スキー場をはじめ各観光施設がコロナ禍から回復しつつあるなか、当該地からの直行バスや路線バスの新設などアクセスを強化し、来場者増大を図っている。	
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標		単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
					基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1	市民意識調査(これからも 米原に住み続けたい)	%	市民意識調査による「これから も米原市に住み続けたいか」の 回答が「これからも住みたい」 「当分の間住みたい」の割合	79.6	H20	79.9	H31	モニタリング			市民が整備効果を間接的に表 す指標のため	
								事後評価	確定 見込み	●		
その他の 数値指標2								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			
その他の 数値指標3								モニタリング				
								事後評価	確定 見込み			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
滋賀県統計書により、毎年、駅の乗降客数のモニタリングを実施した。	予定どおり実施した	● 実施頻度：年1回 実施時期：滋賀県統計書公表時期 実施結果：採用した指標は滋賀県統計書により毎年度、数値が整理されているものであるため、モニタリングを容易にすることができた。	今後も継続して実施する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
滋賀県地価公示資料より事業用地周辺の3か所の地価公示価格の平均額によるモニタリングを実施した。	予定どおり実施した	● 実施頻度：年1回 実施時期：地価公示時期 実施結果：採用した指標は地価公示資料により毎年度、数値が整理されているものであるため、モニタリングを容易にすることができた。	今後も継続して実施する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
市民、市民活動団体および障がい者関係団体などと市民ワークショップや意見交換会を開催し、地域交流センターのあり方や駅周辺整備の課題等の意見集約を行った。	予定どおり実施した	● 実施頻度：計4回 実施時期：工事着手前の令和元年9月まで 実施結果：各団体の意見を施設整備に反映できた。	今後も意見を聞きながら、よりよいまちづくりを進めていく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 経済状況等)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名：組織の概要	
本事業(米原駅周辺の都市機能強化)を契機として、駅周辺の活動が活発となり、賑わいが生まれつつある。	予定どおり実施した	● 毎月米原駅東口まちづくり協議会と開発に向けて協議を行ったが、経済状況等もあり企業進出が困難となった。	一般社団法人米原駅東口まちづくり協議会：金融機関が中心となりコンソーシアムを組成(令和5年度解散)	民間開発事業を誘導し、まちづくりを進める。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
土地利用調整協議	都市計画課 農政商工課 農業委員会 政策推進課	令和5年9月13日	政策推進課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2	指標4						
指標名		地価公示価格の平均 (米原-1,3,10)	観光入込客数						
種別	事業名・箇所名	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見
基幹事業	まいばら駅前ぶらっとホーム 屋上広場	◎	本事業を契機として、 周辺地域の平均地価 が上昇に転じた。	○	観光案内所の設置、そ こに直結した連絡通路 の整備したことに加え、 市内各観光施設の経 営努力により観光入込 客数が増加した。				
	まいばら駅前ぶらっとホーム 連絡通路	○		◎					
	まいばら駅前ぶらっとホーム	◎		○					
	観光案内所	○		◎					
提案事業	展望ロビー	◎		○					
	事業効果分析事業	-		-					
関連事業	米原駅東口周辺まちづくり事業	△		△					

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	米原駅東口まちづくり事業用地の活用が進めば、より平均地価に与える好影響が期待できる。	駅ヨコ施設として利活用を図ることにより、市全体ににぎわいをもたらすことを期待する。		
-------	--	---	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標3																
指標名		米原駅の乗車数 (JR在来線+新幹線)			市民意識調査(広域的な交流 機能の整備)満足度																
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類								
基幹事業	まいばら駅前ぶらっとホーム 屋上広場	△	新型コロナウイルスの影響で、鉄道利用者の減少、新快速の減便などで、駅利用者数が伸びなかった。	Ⅲ	△	指標は良化しているものの目標値へは届かなかった。民間主体の関連事業の進捗が見られなかったことも要因と言える。	Ⅲ														
	まいばら駅前ぶらっとホーム 連絡通路	△			△																
	まいばら駅前ぶらっとホーム	△			△																
	観光案内所	△			△																
提案事業	展望ロビー	△									△										
	事業効果分析事業	—									—										
関連事業	米原駅東口周辺まちづくり事業	×									×										

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、
 指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、
 指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、
 ある程度の効果をあげたと思われる。
 —：事業と指標の間には、もともと関係がないことが
 明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	<p>新型コロナウイルスの影響も収まりつつあり駅利用者も少しずつ回復基調にあるが、生活様態の変化などで元の水準には戻らないと想定する。また、北陸新幹線の敦賀開業により、首都圏と福井県へのアクセスに変化が見られ、米原駅の優位性が減少する。県随一の交通社会資本を有する米原市の強みを最大限に活用し、米原駅にまちの核をつくったことで、その効果を市内に波及させる必要がある。</p>	<p>まいばら駅前ぶらっとホームの認知度が上がれば指標の満足度も上昇すると思われる。そのため、周知活動を継続的にを行い、利用を促進する。民間開発も進めば、地域ににぎわいが生まれ、相乗効果を発揮する。</p>
------------------	---	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
土地利用調整協議	都市計画課 農政商工課 農業委員会 政策推進課	令和5年11月6日	都市計画課 政策推進課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
滋賀県唯一の新幹線停車駅である米原駅東口周辺の開発が遅れており、利便性の低さについての市民の不満が多い。	市役所庁舎の統合、開庁に合わせ、複合機能であるまいばら駅前ぶらっとほーむを整備し、ホールや貸会議室、市民活動スペースを設けたことにより、駅利便性が向上した。	米原駅東口南側の公有地活用の計画が白紙化された。現在、新たな進出事業者の公募を行っている。	米原駅東口ロータリーの車両の混雑が顕著となっている。特に夕方は高校生帰宅時の歩行者の増加により、ロータリーから出る車両の滞留や観光バスの客待ちによるバスプールの飽和が見られる。
滋賀県の玄関口にふさわしい行政・文化機能、商業・業務機能の集積が少なく、まちの核として優れた立地特性を生かした新たな市街地の形成、都市機能の集積、強化が求められている。	市役所庁舎の統合、開庁により、行政・文化機能の強化、向上が見られた。	商業・業務機能の集積が乏しい。	
米原駅は多くの人に利用されている利便性の高いターミナルでありながら、その大部分が乗換を中心とした利用形態であり、駅周辺の土地利用がほとんどないのが現状である。	米原駅東口の北側については、市役所の移転、民間事業者の進出により、土地利用が進んだ。	米原駅東口の南側については、民間開発事業の計画が具体化せず、土地利用が進んでいない。	
魅力ある地域資源と交通の利便性を生かしたおもてなし観光の推進が必要であり、また、今後も2022年関西ワールドマスターズゲームや2025年の大阪・関西万博の開催に連動し、米原駅の役割や機能は更に増すものと想定され、広域観光の玄関口としての効果を存分する必要がある。	観光案内所の整備と米原駅東西自由通路に直結した連絡通路を整備したことで、観光客や駅利用者へのPRができるようになった。	該当なし	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	施設の利活用促進、維持管理	来訪者や市民の利活用を推進する取組を行うとともに、利用しやすい環境、サービス提供に向けた維持管理を行う。	観光案内所、市民交流センターの利用促進、維持管理

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	米原駅東口南側の公有地の活性化	令和6年度中に公有地売却の契約を締結するスケジュールで、進出事業者の公募を令和5年12月から実施	進出事業者選定プロポーザル 進出事業者支援
	・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策		

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

- ・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	米原駅の乗車数 (JR在来線+新幹線)	人	12,209	H28	15,100	R5	確定	9,832	×	あり	●	R6年12月	滋賀県統計書による発表値により、達成状況を確認する。	
							見込み ●			なし				
指標2	地価公示価格の平均 (米原-1,3,10)	円/m ²	52,200	H30	52,200	R5	確定 ●	55,700	○	あり	●			
							見込み			なし				
指標3	市民意識調査 (広域的な交流機能の整備)満足度	%	6	H29	10	R5	確定 ●	8	△	あり	●	R7年度内	市民意識調査の結果により、達成状況を確認する。	
							見込み			なし				
指標4	観光入込客数	人	1,690,900	H30	1,704,000	R5	確定 ●	1,832,998	○	あり	●	R6年12月	滋賀県観光入込客数による発表値により、達成状況を確認する。	
							見込み			なし				
指標5				H		H	確定			あり	●			
							見込み			なし				
その他の数値指標1	市民意識調査 (これからも米原に住み続けたい)	%	79.9	H31			確定 ●	80.3			●			
その他の数値指標2				H			確定				●			
その他の数値指標3				H			確定				●			

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・定期的に公表される指標を用いることで、モニタリングが容易にできた。	・定期的にデータが公表される指標を選定するとモニタリングが容易となるため、指標を設定する際には計測のことも考慮して検討することが望ましい。
	うまくいかなかった点	—	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	・各事業と関連が深い数値を目標として使用したことで、整合性を図ることができた。	・都市再生整備計画の作成時には、事後評価の実施を考慮して指標を設定する必要がある。 ・従前値の算出方法の記録を保管しておくことが必要である。
	うまくいかなかった点	—	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・市民ワークショップや福祉団体等との協議を行ったことにより、スムーズに事業を進めることができた。	・住民参加は要望や意見を取り入れることができるなど、まちづくり事業を円滑にする上で有効である。
	うまくいかなかった点	—	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・既存組織を活用することで、スムーズに事業を進めることができた。	・モニタリングの実施は、事業の進捗状況を確認できて有効である。
	うまくいかなかった点	—	
その他	うまくいった点	—	
	うまくいかなかった点	—	

添付様式6—参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

事後評価予定：柏原駅周辺地区

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市公式ウェブサイトに掲載	令和5年12月21日 ～令和6年1月12日	令和5年12月21日 ～令和6年1月12日	郵送 ファックス	政策推進部 政策推進課
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他					

住民の意見	意見なし
-------	------

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	—	—	—	—	—
その他の委員	—				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	—
	成果の評価	—
	実施過程の評価	—
	効果発現要因の整理	—
	事後評価原案の公表の妥当性	—
	その他	—
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	—
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	—
	フォローアップ	—
	その他	—
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	—
その他	—	—

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
滋賀県立大学 環境科学部 環境建築デザイン学科 轟 慎一 准教授	令和6年3月5日	政策推進部政策推進課

有識者の意見	<ul style="list-style-type: none">・KPIの評価指標と事業の成果(評価)には、差があるように感じる。しっかり分析しないと事業と指標に差があるままとなる。・事業成果の認知度が低いと評価しない人が多くなる。認知度アップも必要である。認知があったうえで低評価ならば、機能向上が必要となる。・施設利用者へのアンケートやヒアリングが有効・ビジターやビジネス利用者にはありがたい機能となっている。飲食や物販機能があるとより良い。・JR、近江鉄道、バスなどの拠点性やハブ機能を担う可能性があると思うが、まとまりが乏しいと思う。周遊観光の拠点、圏域の考え方の整理が必要に思う。
--------	---